

| 教員名   | 教員所属           | 科目名                 | アンケートに対するコメント  |
|-------|----------------|---------------------|--|
| 浅岡 章一 | 人間心理学科         | 基礎ゼミナール             | この科目の特性上、到達の目標が多岐にわたり、授業の目的自体が分かり辛くなっている点は否めない。そのため、初回のガイダンス時に、シラバスの内容を丁寧に説明すると共に、今後の本学科の学びにどのように関連するかについて出来る限り説明を加えたつもりであるが、アンケート結果を見る限り十分に理解されなかったようである。今後、資料等への記載の工夫等を通じて、この講義の内容がどのように今後の学習に役立って行くのかを受講生がイメージできるようにしていきたい。   |
| 浅岡 章一 | 人間心理学科         | 神経・生理心理学            | なぜか毎年シラバスを履修時にシラバスを読んだという項目への得点が低い。そのため初回の授業時には必ずシラバスの内容を丁寧に説明するようにしている。授業評価に関しては、概ね高い評価となったが、授業態度に関わる二項目(自分の受講態度、私語の注意)の得点は高くなかった(4.0)。受講人数が多く目が届かない部分もあるかとは思いますが、次年度の講義では講義に集中できる環境の確保により注意していきたい。   |
| 井上一郎  | マス・コミュニケーション学科 | マーケティング論1           | マーケティング論1においては、学生にとっては身近とは言えないビジネスの戦略フレームのなども扱うが、その中であってアンケート回答者35人のうち「授業内容はわかりやすい」の評価4以上が約85%(30/35)、同様に「多くの知識が得られた」の評価4以上が約94%(33/35)だったのはほっとした。出席率が4.7と前期と比較して高くなったのは良かった。一方、例年予習復習が少ないことは引き続き課題。特に復習時間を延ばすために、エドクラテスに復習用のフルテキストをアップし、手書きによる自作の講義ノートの作成を促し、当該手書きノートについては、試験に持ち込み可としたが、残念ながらアンケート結果からは成果は芳しくない。再度、まずは予習を促したい。なお、口頭コメントにアンケートに誤字が多いとの指摘が1件あったが、改めてテキストを見直したが、誤字が多いという指摘は正確ではないと感じた。講義中に、私が、画面のテキストの誤字に気づいて修正したことが2、3回くらいあったが、そのことが記憶として残っていたのかもしれない。いずれにしろ誤字には今後気を付けたい。また、パワポが見づらいためとあったが、フォントは基本24-28ポイントで最低でも20ポイント以上を使用。さらに情報量が多い回についてはエドクラテスにテキストを事前にアップし、各自のパソコンからも見られるようにしているが、こちらも学生の学習のしやすさ向上のために継続していきたい。  |
| 井上一郎  | マス・コミュニケーション学科 | メディア産業論1            | メディア論1においては、各メディアの歴史からビジネスモデルまで網羅する必要があり、情報量が多く、またテキストでの文字も多くながちである。その中であってアンケート回答者111人のうち「授業内容はわかりやすい」の評価4以上が約84%(83/111)、同様に「多くの知識が得られた」の評価4以上が約88%(98/111)だったのは良かった。特に、出席率が4.7と前期と比較して高くなったのも良かった。一方、予習復習はスコアが2.5と低いことが課題。また、授業内では適時、口頭問題を実施その解答を含めたフルテキストを講義後にアップし、手書きによる自作の講義ノートの作成を促し、当該手書きノートについては、試験に持ち込み可としたが、残念ながらアンケート結果からは成果は芳しくない。少なくとも予習について引き続き促したい。口頭コメントでは、面白かった、ペースがちょうどよいとあったので、基本的には内容、ペースは踏襲したい。一方で、講義でうるさい人の注意回数を増やしてほしいというコメントもあった。受講者が110人以上のため、隣席とのちょっとした会話がノイズになるため、注意の方法について再検討したい。   |
| 伊藤雅之  | 基礎・教養教育センター    | 外国史学概論              | 本講義のアンケート結果は、大部分の設問について全学平均とほぼ等しい評価となっています。これは基本的には好ましいことですが、そうとも言い難い点もあります。それは予習・復習に関する部分です。本講義における評価平均は2.6と低めなのですが、これは全体の平均と同じ数字でもあります。本講義のみが突出して低ければ、それは教員の授業運営の拙さや、あるいはまた単純に史学への関心が学生の皆様の中で低いからということになるのですが、全体としてこうした数値が出ていることは、学生の皆様の勉強時間が総じて少ないことを意味します。サークル活動やアルバイトその他が楽しく、また深く学習したい分野がまだ見つからないという方も多いかと思いますが、社会人になりますとまとまった勉強・読書時間を確保するのは今よりも格段に難しくなります。将来やりたいこと、それを実現するには何が必要かを考えていくという意味でも、いままじ学習に多くの時間を割いていただければと思います。  |
| 窪田裕江  | 基礎・教養教育センター    | 英語I(表現) 月曜日3限       | 全項目において、ほぼ平均値の結果でした。17.「私語の注意などのスムーズな授業運営」の評価が一番高く、4.5となっていますが、できれば、注意をする必要のない授業を目指したいと思います。この授業はパフォーマンス型ですので、楽しみながら歌やせりふの練習をしてもえればと思います。「おもしろかった」という肯定的な自由記述がある一方で、一部の学生の中に、スマホやタブレットを見続ける、あるいは授業とは関係のない言葉を発する人がいたことを残念に思います。教師が注意をしなければならぬと、真面目に授業を受けたい学生達の時間を奪うことになり、また、スマホ使用や私語をする本人自身も練習に集中できず、発表の際に全力を発揮できない可能性がでてきます。英語は頑張る練習をすれば、必ず上達しますので、何よりも自分自身のために、授業に積極的に参加し、いろいろなことを(英語の歌を歌う自信や楽しさをふくめて)得てもらえればと思います。   |
| 窪田裕江  | 基礎・教養教育センター    | 英語I(表現) 月曜日2限       | 「15.授業の開始時間と終了時間」の評価が2.5でした。これは、私が利用している高速道路での事故と交通渋滞(6月に千葉まで開通し交通量が増えた為)が続き、大幅な遅刻が複数回あったことが要因だと思います。理由が何であれ、起きてはいけないことですので、学生に対して申し訳なく思います。今後の再発防止に十分努めます。「12.板書や機器の見やすさ」の評価が3.5となっていますが、お借りした教師用PCがWifiにつながらない、PCの音声教室のテレビから出力されない等で、メディアセンターの方にきて頂いたことが5回ありました。このトラブルの影響を最小限に抑えるために、学生用PCを直ちに借りたり、ミニスピーカーを持参するなど、早い時点で対策も必要だったと思います。「9.授業内容のわかりやすさ」は、肯定的な自由記述がある一方で、評価は3.2でした。もっと学生の注意を引き付けたいと説明を繰り返す必要があったと思います。また、自由記述で「題材が不適切」とありましたが、歌は全て、学生の希望を2回アンケート調査した結果の選択でした。クラスにはいろいろなレベルや興味の学生がいます。ゆっくりでも一生懸命取り組んでいる学生もいますし、深いテーマが好みの学生もいます。学生のアンケート結果であるということ、学生間の多様性を理解してもらえればと思います。また、「授業とは関係ない話をする」という自由記述がありましたが、私としては、今後の人生において起こりうること等、それに対して今できること等を、学生の意識向上のために話したつもりです。ですが、この話をしたきっかけは、一部の学生の授業態度の問題であったことはゆがめません。この授業はパフォーマンス型ですので、楽しみながら歌やせりふの練習をしてほしいのですが、スマホ・タブレットを注意しても見続ける、或いは授業とは関係のない言葉を発する学生達を何度か注意しなければならなかったのは残念に思います。本来するべきではない事を学生が意図的に行ってしまったが為に教師が注意をしなければならず、その間、真面目に授業を受けたい学生達の時間を奪うことになってしまったことも、とても残念です。頑張る練習をすれば、英語は必ず上達しますので、何よりも自分自身の為に授業に積極的に参加し、いろいろなことを(英語の歌を歌う自信を含めて)得てもらえればと思います。 |
| 杉山敏啓  | 経営社会学科         | 基礎ゼミナール             | この科目は新入生を対象に、本学に慣れて頂くとともに、これから経営・社会分野について学ぶにあたって、学習を通じて社会適用能力を身に付けることの意義を、テキスト輪読とディスカッションを通じて遂行いたしました。テキスト輪読にあたっての予習、復習の時間は不足していた可能性が高く今後の課題と認識します。PPTを用いた最終プレゼンテーションは、各自の興味がある分野を深掘することができ、全体的な成果をもたらす上で有意義であったものと再認識いたしました。  |
| 杉山敏啓  | 経営社会学科         | 金融ビジネス基礎 I / 金融基礎 I | この科目は金融分野の初学者を主たる対象に、金融機関、金融商品、金融システム等の用語・仕組みについて講義形式で学習する科目です。履修者人数などを考慮し講義形式で遂行したため、双方向コミュニケーションが不足改善の余地があると認識しました。中間試験1回を行いました。中間試験、最終試験だけでは復習インセンティブが弱く、今後改良を検討する余地があるものと認識いたしました。   |

|      |                |                 |  |
|------|----------------|-----------------|--|
| 高田正之 | 情報文化学科         | 情報セキュリティ        | 授業自体に関する項目すべてにおいて、全学平均をわずかに下回る評価でした。中でも低めの項目は「授業内容はわかりやすかった」「専門知識や専門用語の説明はわかりやすかった」であり、それらに比べて「授業は何を目的としているのか明確に理解できた」は低くありません。少々高度な内容を、細部にこだわらず大局的に理解してもらおうとしているので、そうした傾向になりがちな科目かとは思いますが、もう少し「わかった」という満足感を味わえる工夫を重ねていきます。  |
| 高田正之 | 情報文化学科         | DTP演習           | この科目は今回が最後の開講ですから皆さんの評価を今後の授業に活かすことはできませんが、長文で具体的な感想をいただいたので特にお答えしておきます。感想の主旨は、本の制作過程や背景知識よりもInDesign等の制作ツールの機能や操作スキルを逐一具体的に教えてほしいであったということでした。この科目は神部先生と私とで教え方の方針が違い、神部クラスはご希望に近い形だったはずですが、違いを具体的に伝えてから選択する機会を用意してあったら、より希望に沿った履修ができたのかもしれない(気づいた時点で申し出れば移れましたから、その点は残念です)。それはそれとして、高田クラスの「方針」の要点を説明しておきます。私は技術者になる人や技術と接する人、別の言い方をすれば「ものづくり」に関わる人を育てることを重視しています。私の経歴からいって最も学生の役に立てる分野だからです。その観点からこの科目では、本の制作というテーマを通じて、作品の企画・設計、チーム作業、マニュアル活用、スケジュール管理・調整といった、ものづくりに欠かせない体験と訓練を意図しました。技術の習得は、教わった機能の数よりも、工夫や失敗の体験を通じて得られるものです。特に、各回の課題に「意味のわからない縛り」が多かったという感想もいただきました。少なくともこの方にとっては私の説明が足りなかったわけですけれども、いつも課題の疑問点は質問するよう求めている、その時に意味を確認してほしいのです。そうして双方向に意思疎通できることこそ対面授業の存在意義だと思うわけです。もっとも、「話し方は明確だった」「内容はわかりやすかった」「熟意を感じた」といった項目が全学平均をかなり下回っていて、早い段階でもしかたない相手」と諦められていたのだとしたら残念なことですし、多くの人にそういう印象を与えていたとしたら何かを改めるべきなのでしょう。話し方が不明確という評価がヒントかと思えます。別の科目で工夫してみます。 |
| 高田正之 | 情報文化学科         | プログラミング演習Ⅰ      | 自由記述欄に「勉強になりました」「とても考えさせられる講義だった」「専門的な話が多く理解に時間がかかりました」という感想をいただき「わが意を得たり」と思いました。大いに考えていただきたいのです。(3番目のは他の評価項目から見ると「難しすぎた」という意味ですが、苦労した結果かなり理解できたのであれば大成功です。毎週1時間以上復習した人の多くは、最終的に理解できた様子です。)しかし、授業に関する評価項目すべてにおいて全学平均を下回っていて、特に「授業内容はわかりやすかった」「専門知識や専門用語の説明はわかりやすかった」「話し方は明確だった」の評価がかなり低く出ている、ここでも標準的な学生には難しかったことが伺われます。特に不明確という指摘は重く受け止めました。学科全体のカリキュラムが新しくなったので、いずれにしても内容の大幅見直しが必要ですが、今後の改善に活かしていきたいと思えます。また、「答え合わせなどのフィードバックがほしかった」という要望もありました。本来、毎週各自の回答に応じたフィードバックを返すべき科目なのに、個人的な事情で採点が全く追いつきませんでした。そんなことならば無理に初志貫徹を目指す、せめて(要所要所で示した)標準回答例を、毎回示したほうがよかったと反省させられました。余裕のないときは頭が回らないもので、申し訳なく思います。(オフラインで採点したぶんのフィードバックを返し忘れていました。遅ればせながらエドクラテスに書き込んでおきます。)   |
| 田中中和 | 経営社会学科         | 戦略的経営論Ⅰ         | 本講義は講義回数がすむにつれて、履修学生の専門知識が徐々に得られる仕組みを取り入れ、また座って話を聴くだけ(あるいはノートをとるだけ)のスタイルを排除し、素朴な質問から入りながら積極的に学生が自分の意見を発信していける機会を常に持つよう心掛けてきた。継続して講義を履修することで、履修学生自身が学問に勤しみ、また自身の成長を実感することができるようになってくることから、本講義の出席率は最高得点の5.0をたたきだしていることは担当者としても大変うれしいことであった。他の項目も全て平均値を上回っており、「内容は難しかったけどわかりやすく教えてくれたよかった」や「大変わかりやすく身になる話を聞いた」など、履修生の理解しようとする姿勢もすばらしく、十分な伸びしろのある学生の成長に関われたことは、講義担当者として貴重な経験となった。  |
| 林香織  | マス・コミュニケーション学科 | メディアコミュニケーション論Ⅰ | 非常に難しい理論的な講義科目ですが、マスコミやメディアを学ぶ上で、重要な概念を学ぶ機会だと思って、多様なものの見方から、自らの意見や考えを構築できるようになることを目指すものです。必修科目なので、出席率も高く、評価も4.1と平均的なものでした。多くの知識を獲得できた(4.2)の一方、わかりやすさ(3.8)とやや評価が下がっているの、内容を詰め込みすぎた感があり、そこは反省点です。ただ、理論というものは、その場で理解するというよりも、具体例などを自分で考えて初めて獲得できるものなので、予習復習はきちんと行ってもらいたいです。皆さん自身の予習復習の評価は2.6ととても低いので、予習復習できるような仕組みをどう作っていくかが、課題だと感じました。自由記述に中間テストについて「内容について書けと書いていなかったので書くことを求められた」という不満が書かれていました。中間テストの前にも事後の解説でも説明したように「神戸新聞社のニュースを踏まえて」の「踏まえて」ができていないということかと思えます。確かに、「内容を書きなさい」という指示ではありませんが、「踏まえる」というのは、ニュースの内容について、言及しないといけないという意味です。でないと、テスト中にわざわざ記事を読ませている意味はありません。テストについて、事前に回答の仕方を解説しているの、それをきちんと聞いていた人は、みな高得点を獲得しています。授業の中のヒントは見逃さないようにしてください。   |
| 林香織  | マス・コミュニケーション学科 | マス・コミュニケーション史Ⅰ  | この科目は、必修科目のため、受けたくない人も受講するという前提で、できるだけ、広範な興味に応えられるように、メディアの歴史の流れに沿って、解説するようにしています。そのためもあってか、全体的な平均は4.4と非常に高くなっていました。正直、歴史の話は古臭く、イメージのしにくい部分もあると思うので、他の授業より意識的に映像資料を使うなどしていますが、わかりやすかった4.3と皆さんが評価したことは、ありがたいと思います。ただ、予習復習時間についての自身の評価は2.7ととても低くなっています。皆さんが予習復習できるような、何か仕組みづくりが必要だと感じました。  |
| 林香織  | マス・コミュニケーション学科 | マスコミ総合科目Ⅰ       | 今年から初めて担当する科目なので、やり方がよくわからず、スムーズに進められない部分があると思いますが、全体的な評価の平均は4.3と標準的なもので安心しました。ただ、専門知識や専門用語の説明はわかりやすいが3.9とやや低くなっていました。たくさんのゲスト講師がきている分、それらの話のポイントを説明したりする必要が感じました。少し他の担当教員とも話をし、ゲスト講師とそうでない授業の進め方については、改善していく必要性を感じます。他の授業と同様、予習復習時間に関する評価は2.6と低くなっています。次の回のゲストがどのような人物なのかを調べるとか、会社名が公開されているので、会社について下調べをすとかしておくと、よいのではないのでしょうか。取材するときの基本も、相手を必ず下調べします。そのうえで話を聞くと、より理解が深まると思います。   |
| 馬場一晴 | 基礎・教養教育センター    | 情報リテラシー         | この科目は、留学生を対象にした情報リテラシーの科目(必修)です。特に、パソコンの基本的操作方法、文書作成ソフトウェア(Word)、表計算ソフトウェア(Excel)、プレゼンテーションソフトウェア(PowerPoint)の活用法、及びインターネットに関する基礎知識の習得を目指して、講義と演習を行いました。必修科目ということもあり、出席率は良く、授業評価も比較的良好(4.2)でした。「分かりやすい」「先生優しいです。」「パソコンの知識を学びました」という肯定的な意見を頂きました。今後は、授業内容をより良く改善して、履修者の方々にとって、コンピュータやネットワークを活用するための基本的能力(コンピューターリテラシー)と情報活用学力を高めることに資するような授業を提供できるように研鑽を積んで参ります。  |

|       |        |                         |  |
|-------|--------|-------------------------|--|
| 福田 一彦 | 人間心理学科 | 睡眠の心理学 I                | 第2回小テスト(定期試験)のまとめ回がなかったことが残念です。とのコメントですが、授業の運営が上手く行かず、最後が駆け足となってしまったことは申し訳ありませんでした。また、授業資料のアップが遅かったとの指摘もありますが、その点についても反省しています。pdfはカラーにして欲しかったという要望ですが、わざわざモノクロに変換していましたが、レーザープリンターもカラーの時代ですものね。今後はカラーで配布する事にします。来年は以上の点について改善するつもりです。  |
| 福田 一彦 | 人間心理学科 | 心理学英語 I                 | 「基礎からわかりやすく説明していただき、英語論文に慣れる良い機会でした」という感想をいただきました。有難う御座います。また、「もう少しゆっくり話していただきたい」というコメントもありました。分かりました。努力します。   |
| 尾花真梨子 | 人間心理学科 | 児童心理学                   | 1年生前期科目ということから、皆さん自身のこれまでの育ちや経験を振り返り、児童期の子どもの発達の様相をイメージしやすい授業構成を心がけました。その点について、多くの方が高く評価してくださったことを嬉しく思います。大学での学習が始まったばかりで、シラバスを読むことや予習・復習の程度など、まだまだ手探りな点も多いかと思いますが、それがアンケートの結果にも表れていました。今後は、授業の中で適宜アナウンスするなど、自分で学びを深められるような授業構成・展開をしていきたいと思ひます。  |
| 水野邦太郎 | 情報文化学科 | 基礎ゼミナール                 | 評価平均が4.2であること関連して、授業に対する予習や復習が低い結果でした。それを踏まえ、来年度は、予習と復習の「サイクル」を基礎ゼミの中に取り入れるよう授業全体をデザインしたいと思ひます。  |
| 水野邦太郎 | 情報文化学科 | English Communication I | 評価平均が4.7であることから、授業の内容と方法は、おおむね学生たちの知的好奇心を喚起し、英語の技能を高めるうえで役に立ったと捉えられます。来年度も、引き続き今回の授業を下敷きにして、工夫を加えたいと思ひます。そひとつに、英語を使ってプレゼンする機会を授業のなかに取り入れたいと思ひます。   |
| 水野邦太郎 | 情報文化学科 | 英語 I (表現)               | 評価平均が4.4であることから、授業の内容と方法は、おおむね学生たちの知的好奇心を喚起し、英語の技能を高めるうえで役に立ったと捉えられます。出席率が高く、主体的に学生が参加し、学期末の試験も良かったです。   |
| 山本隆一郎 | 人間心理学科 | 基礎ゼミナール                 | この科目は、1年生の必修科目であり、「江戸川大学の学生として」「人間心理学科の学生として」の学びの基礎を少人数制のゼミ形式で行う授業である。全体の平均値は4.7点と非常に高い評価を頂いた。昨年と比較すると大きく伸びている。しかしながら、昨年のコメントにも記したように、学生同士の相互作用やインフォーマルな場での交流の良さという点が大きく評価に関係している。私自身の授業運営というよりも今年度の学生間の雰囲気の良い高評価につながっていると考えられる。「私にとって楽しい」授業と「大学での学びとして有意義であった」授業ということを一視することは本質的でない(もちろんその両者が同居することは好ましいかもしれない)。基礎ゼミ生の皆さんは、この授業を通じて、大学という場の学びの基礎として何が身についたかを省察してほしい。  |
| 山本隆一郎 | 人間心理学科 | 健康カウンセリング概論             | この科目は、現代の健康問題が、環境と個人との相互作用による影響が大きいことに鑑み、健康行動の形成維持や望ましい生活習慣のサポートのための知識やその方法論を解説した授業である。学生さんの全体的な評価としては、概ね昨年までと同様に高評価であり、自由記述でも、授業資料の分かりやすさに関する好評を頂いた。また、授業の中で、一部騒がしくする学生がいたようであるが、授業運営内でのその統制についても「いい環境で勉学に励むことができた」と評価していただいた。授業内容も比較的學生が興味を持ちやすいテーマ(飲酒や喫煙など3年生になった學生に身近なもの)であったことから、主体的に参加しやすかったのではないかと考える。しかしながら、この授業で学んだ健康行動やそのサポートの仕方に納得ができたのであれば、まずは自分や身近な人々に応用できて初めてこの授業の意味がある。面白いテーマだったということだけではなく、主体的に学んだ学習を過去のものとして、現在そして今後の生活に生かしてほしいと考える。    |
| 吉田一康  | 経営社会学科 | 企業と法 I                  | 全般的に、高い評価をして頂きましたが、設問18「教員の授業に対する熱意を感じた」及び設問19「総合的に考えて、この授業を後輩や他に人に薦めたい」が4.2と、相対的に低い評価だったことは、講師の加齢による熱意の減退が表情に表れているものと思われ、今後は、これまで以上に、明るく元気よく講義をしなければならぬと、考えさせられました。設問13「板書や機器を使った表示文字は見やすかった」が4.5、設問14「専門知識や専門用語の説明はわかりやすかった」が4.4の評価であったことから、以前から乱雑さが指摘されることが多かった板書や説明が、多少は改善されたのかなと思ひました。また、設問6「この授業に関して、予習や復習などの事前準備や復習はどの程度時間をかけましたか」の評価が2.8だった点については、講義内で、次週のテーマの紹介や課題などを与えて、予習や復習を習慣づける工夫が必要と考えました。学生の受講態度は、遅刻者と居眠りがややみられましたが、毎回、驚くほど静かで真面目なものでした。 |